

社会福祉法人 上越老人福祉協会

平成27年度 事業実施状況報告

役員会説明資料

(概要版)

## 目次

1. 全体評価	P 1
2. 各事業の報告	
(1) いなほ園グループ 事業活動	P 5
(2) 新光園グループ	P 9
(3) 高田の郷グループ	P 11
(再掲) J O C O の状況報告	
3. 各種委託事業	
①新潟県（新潟市）認知症介護者研修	P 15
②上越老人福祉協会喀痰吸引研修事業	
添付（資料集）	

## 1. 全体評価 (法人事業経営の概要)

(1) 収支状況 (目標収入：2,416,187 千円・支出：2,359,501 千円)

収入では、介護報酬の減額改定 (前年比△5%・△98,000 千円) と併せて利用率の低迷により目標比 162,414 千円の減収となった。

支出では、計画の紙おむつの一括購入による経費削減ができた。さらに、期末賞与を支給停止し支出抑制を図った。又、欠員による人件費減、事業費に当たる光熱水費等の使用量減少、事務費に当たる修繕、保守料等の減少による経費減となり、目標比△25,778 千円となった。

全体として、介護報酬の減額と利用率低迷が大きく影響し大幅な減収となった。支出削減は予定通りの実績となったが収益改善には至らず収支状況の悪化につながった。

単位：千円

当期活動増減差額の状況			
会計名	目標額	平成27年度	比較増減
本部	4,114	2,198	△1,916
いなほ園拠点区分	2,840	△29,717	△32,557
新光園拠点区分	7,346	4,169	△3,177
高田の郷拠点区分	50,161	△45,538	△95,699
その他の拠点区分	△16,360	△14,816	1,544
法人全体	48,101	△83,704	△131,805

(2) 経営改善計画の状況

平成27年度予算より収入は、利用率増加及び加算確保により56,072 千円の増収を見込んだ。支出は、紙おむつの一括購入、期末賞与の支給停止により、25,336 千円の経費削減を計画した。最終的には、収支差額を△63,733 千円と見込んだ。

増収計画では、加算収入はほぼ予定通り確保できた一方、利用率は、基幹入所施設3施設の内、特養3施設はほぼ計画通りの利用率が確保されたが報酬減額により事実上減収となった。老健高田の郷は改善に取り組んだが昨年を下回る結果となり減収が膨らんだ。在宅サービスは、利用者確保対策を実践してきたが、成果につながらず全事業所において目標率を達することができなかった。特に高田の郷の通所リハビリは前年比を大きく下回り改善強化に取り組んだが回復できなかった。高田の郷では、利用者確保の課題に挙げた重度化対策に向けて特殊浴槽の設置を次年度予定している。

支出では、紙おむつの法人一括購入により、昨年比で 3,700 千円の削減ができた。その他、職員の欠員、利用率減少経費、事業費及び事務費の減額が要因となっている。


期末賞与については、決算見込みから支給財源の確保ができないことから、職員に対し法人財務状況や経営改善の取り組み成果を示し支給を見送った。

### (3) 本部再編後の状況

6月から事務局長専任、8月から法人業務管理に向けて本部事務局体制に組織再編した。毎週開催する経営会議は各事業の経営状況や法人課題について、迅速な協議及び決定に対応機能している。再編主旨である統括管理については、法人管理業務の振分けと移行体制が整わず実践に至っていない。

次年度に向けて本部機能体制を整え、業務の振分けを確定した上で統括管理を進めていく。

### (4) 課題別プロジェクトの活動報告及び進捗状況

課 題	活動報告及び進捗状況
法人 HP のリニューアル	6月運用開始に向けて作業中
給与規程・退職金制度の見直し	現行規程の見直し項目を洗い出している。
事業開発 JOCO 経営改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな事業は、法人の財務状況から計画を凍結した。</li> <li>・事業転換の応募が採択され 10 月より事業開始できたとしても楽観視できず経営努力が必要となる。</li> </ul>
腰痛予防	各衛生管理者が主導して実態把握と課題抽出の体制を構築し取り組んでいる。
法人ロゴマークの作成	<div style="text-align: center;">  </div> <p>構図意図</p> <p>法人創設の特養いなほ園を基軸とした高齢者事業ネットワークの取り組みを新潟県上越市から全国へ発信する願いが込められている。</p> <p>職員応募作品から選出決定し、商標登録申請中である。</p> <p>作成意図や PR、活用方法については情報部で検討する。</p>

#### (5) 人材確保と職員教育・育成

平成27年4月新採用職員は、米岡の郷開設に伴い介護職員17名、調理員6名（臨時栄養士4名含む）、生活相談員1名。介護福祉士資格取得により臨時職員から正職員への採用は16名である。

初任者研修、中堅職員研修、監督職研修、管理者研修、認知症研修等、研修計画に沿って教育育成に努めた。地域貢献と職員間の融和と士気高揚に直江津海岸清掃実施や上越まつり民謡流しに参加した。

#### (6) 地域貢献活動

障がい者及び高齢者福祉に理解を深め、地域の共生力を育む目的から、春から夏には、「健康福祉花見会」「ひまわり植栽及び越後ひまわり祭」、秋には「はさ木福祉マラソン並びにはさ木フェスタ」への参加及び開催を通じ、諏訪地域を含めた市民に向けた活動を展開した。



## 2. 各事業（グループ）の報告

### (1) いなほ園グループ事業実施状況

<p>特 養</p>	<p>(利用率) 98.0% (目標) 98.0% (前年) 98.1%</p> <p>①利用率状況 入院者が通年4～5名の状況であり空床発生。しかし待機者情報整理の徹底,毎月入所検討会議を開催し、98%の目標率を達成した。</p> <p>②収支差額状況 当期活動増減差額△28,299千円(対目標比△16,482千円) 利用率は前年とほぼ同様であるが、報酬減額改定分が収入を下げている。燃料費、光熱水費、介護用品費等事業費支出約580万円削減できた。</p> <p>③サービス実施状況 重度化により入院者が39名と増加傾向にある(H25年27名、H26年37名)。また、18名の看取りケアを実施した。保育園との交流、小中高校のボランティア受入の他、人材発掘のための初の試みとして1DAYワークショップを上越保健医療福祉専門学校と共同開催した。</p>
<p>短 期</p>	<p>(利用率) 85.7% (目標) 90.0% (前年) 84.4%</p> <p>①利用率状況 7月の特養併設短期の特養ベッド転換により新規利用者が増加。昨年より6名増の46名と契約。前年度入所率を1.3%上回るが目標に達しなかった。</p> <p>②収支差額状況 当期活動増減差額△7,487千円(対目標比△4,299千円) 利用料収入増加と経費削減により若干の収支改善につながった。</p> <p>③サービス実施状況 利用率確保のため、担当者会議(事業所、介護支援専門員、家族、本人)へ積極的に参加して情報共有を図るとともに、関係機関との連携強化に努めた。経費削減は、冷暖房の節制、こまめな消灯など、徹底した節電に努めた。</p>
<p>通 所</p>	<p>一般障害 (利用率) 76.9% (目標) 85.0% (前年) 82.5%</p> <p>認知症対応 (利用率) 30.9% (目標) 70.0% (前年) 49.9%</p> <p>①利用率状況 空床情報の提供、新規利用者の確保に努めている。しかし、入院、施設入所により利用率が減少している。経営改善の取り組みとして、認知症対応型と一般障害型の統廃合について保険者と協議を進めてきた。</p>

	<p>②収支差額状況  当期活動増減差額 6,069 千円（対目標比 △11,776 千円）  報酬単価減、利用率減、個別機能訓練加算が算定できない等により収入を下げた。</p> <p>③サービス実施状況  定期的に居宅介護支援事業所を訪問し、新規利用者の確保ができていますが、施設入所、入院が多く目標を下回った。認知症ケア充実に向けて認知症実践者リーダー研修 1 名受講し、認知症加算・中重度者ケア体制加算の算定につなげた。</p>
G H な か よ し	<p>（利用率）93.8% （目標）98.0% （前年）99.2%</p> <p>①利用率状況  7 名の入退所（H26 年 3 名）があり、入院 2 名と併せて利用率に影響した。</p> <p>②収支差額状況  当期活動増減差額△4,084 千円（対目標比△2,356 千円）  利用率の低下及び報酬減額改定分による減収。</p> <p>③サービス実施状況  重度化による身体機能の低下から転倒リスクが高まっており、注意喚起を行うと共に施設内整理整頓に取り組んでいる。  7 月より食材料費・光熱水費をそれぞれ 2,080 円、1,500 円増額改定。  (法人内グループホーム共通)</p>
G H 宝 寿	<p>（利用率）97.6% （目標）98.0% （前年）96.6%</p> <p>①利用率状況  重度化による入退院、入退所が利用率に影響しているが、ほぼ目標利用率を達成している。</p> <p>②収支差額状況  当期活動増減差額△3,228 千円（対目標比 2,544 千円）  目標利用率の達成により報酬減額改定の影響を最小限に止めた。</p> <p>③サービス実施状況  認知症の重度化が進んでいるが、利用者が混乱せず落ちついて生活できるよう、情報共有に努めた。地域からの要望もあり、施設北側に非常防災ブザーを設置した。</p>



C H み の り の 家	<p>(利用率) 100% (目標) 100% (前年) 100%</p> <p>①利用率状況 入退所 2 名。法人内施設共有ちらしを改善し、市内地域包括支援センターに配布、待機者確保のため広報活動を継続している。</p> <p>②収支差額状況 当期活動増減差額△2,784 千円 (対目標比 2,246 千円) 入居者の所得変更に伴う補助金減額及び人件費按分を変更したための減収。</p> <p>③サービス実施状況 法人内施設共通の申込書に変更し、待機者管理を行っている。定期的な情報交換、待機者の状態把握を行い、入退所管理を徹底している。</p>
み ず ほ 園	<p>(利用率) 95.3% (目標) 92.0% (前年)</p> <p>①利用率状況 入所計画に沿って 4 月中に満床となる。退所者は 5 名であった。定期の入検討会議、転落調整を徹底することにより、空床期間の短縮に努めた。</p> <p>②収支差額状況 当期活動増減差額△4,332 千円 (対目標比△6,018 千円)。 当初予想より堅調に入所計画がすすめられ、目標利用率を上回ったが増減差額はマイナスであった。</p> <p>③サービス実施状況 約半数の職員が新採用職員であり、人員不足状況も続く中、必要最小限の介護サービス提供に努めた。不十分ながらもユニットケアの理解を進めて、家庭の食事の雰囲気を感じるための主食の調理、季節の外出行事、夏まつり、定期の広報紙発行による地域とのつながりも持つ活動を実施した。</p>
光 寿 の 家	<p>(利用率) 登録 14 名 56.3% (目標) 登録 17 名 68%</p> <p>①利用率状況 開所時登録者 10 名であった。その後徐々に増加し、3 月末登録者 18 名となった。8 月には 10 キロ圏 (ケアハウス上越) まで範囲を広げサービス提供を行った。</p> <p>②収支差額状況 当期活動増減差額△12,751 千円 (対目標比△25,714 千円)。 目標登録者数は達成できていないが、確実に利用者を伸ばしてきたが、開設初年度でもあり、増減差額はマイナスとなっている。</p>

	<p>③サービス実施状況</p> <p>諏訪地区町内会長、民生委員、老人会員に施設紹介を積極的に実施した。夏祭りを通して米岡町内会と交流を深めた。また、越後高田はさ木農道マラソンのゴール会場になり、施設周知の機会になった。</p>
は さ 木 研 修 セ ン タ ー	<p>①利用状況      利用延べ人数   約 1,500 名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 27 年度   喀痰吸引研修   2 回開催（18 日間）</li> <li>・平成 27 年度   新潟県小規模多機能型サービス等計画作成者研修   2 日間</li> <li>・平成 27 年度   新潟県認知症介護実践者研修   2 回開催（12 日間）</li> <li>・法人内研修   応急処置講習会、中堅職員研修、監督職研修、危機管理研修、ストレスチェック研修、地域密着型サービス連絡会全体研修等</li> <li>・米岡の郷夏祭り、地区防災訓練会場等</li> </ul>

(2) 新光園グループ事業実施状況

<p>特 養</p>	<p>(利用率) 98.2% (目標) 98.3% (前年) 98.6%</p> <p>① 利用率状況 目標にわずかに及ばなかったが、7月にショートステイ 16床を特養ベッドへ転換したことにより、特養とショートステイの合計延利用者数は、前年度比 2.3%の増加となり、新光園全体の利用率底上げにつながった。</p> <p>② 収支差額状況 当期活動増減差額 1,946 千円 (対目標比 1,800 千円) 特養のサービス活動増減差額は、昨年と比べ 12,945 千円あまり増加し、17,800 千円となった。</p> <p>③ サービス実施状況 ベッド転換に備え事前準備した結果、7月の増床時には満床にすることができ、良いスタートを切れた。また、4月からの市の入所指針改正にともなう待機者整理を行い、退所時にはスムーズな入所につなげている。</p>
<p>短 期</p>	<p>(利用率) 91.4% (目標) 80.0% (前年) 84.7%</p> <p>① 利用率状況 ベッド転換後はベッド数が4床となり、利用率は安定したが、キャンセルが出た場合にはその補充に苦慮している。</p> <p>② 収支差額状況 当期活動増減差額 △2,439 千円 (対目標比 570 千円) ベッド転換により収益は大きく減少したが、サービス活動増減差額は 571 千円改善した。</p> <p>③ サービス実施状況 特養への転換に際しては、家族と個々に相談しながら、利用者に迷惑がかからない対応を行った。</p>
<p>通 所</p>	<p>(利用率) 76.9% (目標) 80.0% (前年) 78.5%</p> <p>① 利用率状況 1か月前の予約では平均利用率が 84%であるにもかかわらず、実績ではキャンセルが出て下がる傾向が常態化している。年間を通じて新規利用者が確保できているので、利用率の向上につなげていきたい。</p> <p>② 収支差額状況 当期活動増減差額 3,930 千円 (対目標比 △5,238 千円) 個別リハ加算 I、中重度ケア体制加算の算定をおこなったが、介護報酬の引き下げ、および利用率の低迷の影響が大きく、サービス活動増減差額は前年比 41% (△3,825 千円) の減額となった。</p>

	<p>③ サービス実施状況</p> <p>28年度は個別リハ加算Ⅰの365日実施と、個別リハ加算Ⅱの算定に取り組む。</p>
G H 百 寿	<p>(利用率) 97.1% (目標) 98.0% (前年) 98.8%</p> <p>① 利用率状況</p> <p>上半期は、退所にもなう新たな入所受け入れに日数を要し、利用率が低下した。下半期は退所者がなかったが、短期間の入院者と外泊者があったことにより、全体として目標の利用率に達しなかった。</p> <p>② 収支差額状況</p> <p>当期活動増減差額 2,060千円 (対目標比 △1,360千円)</p> <p>上半期の空床の影響と、介護報酬の引き下げにより、サービス活動収益は前年比2.4%(△1,793千円)減少したが、収支状況はおおむね安定して推移した。</p> <p>③ サービス実施状況</p> <p>新たに町内老人会と保育園への外出交流を行い、利用者の楽しみの機会を増やした。</p>
C H 上 越	<p>(利用率) 99.4% (目標) 98.5% (前年) 99.0%</p> <p>① 利用率状況</p> <p>待機者確保のため、法人内に複数施設があることを活かし、軽費老人ホームとの合同の営業活動や申込窓口の一本化などを実施した。</p> <p>② 収支差額状況</p> <p>当期活動増減差額 1,423千円 (対目標比 △231千円)</p> <p>収入と支出のバランスが取れ、安定した収支状況で推移した。</p> <p>③ サービス実施状況</p> <p>介護要望や引きこもり防止のため、施設内外の行事や活動を積極的に実施し、社会生活の自立に取り組んだ。</p>
地 域 包 括 支 援	<p>① 実態把握 493件 (目標) 480件 (前年) 611件</p> <p>② 予防給付 1829件 (目標) 2160件 (前年) 2305件</p> <p>③ 総合事業 426件 (目標) 180件 (前年) 0件</p> <p>④ 地域連携表 97件 (目標) 120件 (前年) 61件</p> <p>⑤ 取り組み状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ケア会議4回、個別地域会議6回実施。</li> <li>・地域密着型サービス5カ所の運営推進会議へ延べ28回参加。</li> <li>・介護支援専門員支援113件、担当者会議40件参加。</li> <li>・成年後見制度申し立て3件、高齢者虐待対応会議延べ9回実施。</li> <li>・有田地区、春日地区で介護予防講座を各1回開催。</li> </ul>

(3) 高田の郷グループ事業実施状況

<p>入 所</p>	<p>(利用率) 82.4% (目標) 94.0% (前年) 85.3%</p> <p>①利用率状況          申込者数は年間133件(月平均10件)と少なく、さらに待機者も極わずかな状態が続き、利用率は目標対比で11%強下回る。要因は他機関との連携不足、広報の不足などの他、受入れニーズの制限等が影響したためである。併せて利用者の重度化ニーズへの対応の遅れも関係している。</p> <p>②収支差額状況          当期活動増減差額△29,061千円(対目標比 △63,082千円)          介護報酬の減額と利用率低下のため</p> <p>③サービス実施状況          ・専門棟で精神不安の利用者があり、トラブルの対応や支援に苦慮することが多くあり、その都度、精神科医師への相談や多職種で対応により対処した。          ・体制整備ができず、看取りサービスのニーズに応えることができなかった。</p>
<p>通 所 リ ハ</p>	<p>(利用率) 69.0% (目標) 80.0% (前年) 78.4%</p> <p>① 利用率状況          新規数は多くあったが利用中止も多く、特に特定曜日の利用者が確保できなかったことから目標対比20%強下回る。居宅との連携不足や情報発信の不足、サービスの提供体制等の課題などが要因である。</p> <p>② 収支差額状況          当期活動増減差額△12,750千円(対目標比 △30,426千円)          介護報酬の減額と利用率低下のため</p> <p>③ サービス実施状況          ・プラン作成の際には多職種でカンファレンスを行っており、身体状況の把握と課題の洗い出しを行い、プランに反映させている          ・年間を通しての作業レク(壁画作り等)を行い、男性利用者については脳トレを行っている。その他、新たなご希望があった際には取り組みに繋げるようにしている。</p>
<p>敬 寿</p>	<p>(利用率) 95.4% (目標) 100% (通所) 33.9%</p> <p>①利用率状況          新規利用の問い合わせあるが利用に繋がらなかった。それでも、ほぼ予定の利用率を維持した。</p> <p>②収支差額状況          当期活動増減差額△4,032千円(対目標比 429千円)          介護報酬の減額と利用率低下のため</p>

	<p>③サービス実施状況 ケアマネジメントについて、日々のケアと月末のモニタリング、3 か月毎のモニタリング総括を実施、質の高いケアにつなげた。</p>
らく楽	<p>(利用率) 81.4% (目標) 100% (前年) 87.6%</p> <p>① 利用率状況 施設入所者が多く、新規利用の受け入れを行ったが効果的な補充にはつながらず目標を下回った。</p> <p>② 収支差額状況 当期活動増減差額△1,275 千円 (対目標比 3,571 千円)</p> <p>③サービス実施状況 利用者宅への訪問支援を積極的に行った。認知症状の進行への気づきができ、ご家族、主治医と情報共有を行い、在宅生活支援を行った。</p>
Joco	後に再掲
居室	<p>(給付管理数) 1501 件 (目標) 1740 件 (前年) 1825 件 (予防件数) 154 件 (目標) 240 件 (前年) 227 件</p> <p>5 人体制としての目標であったが、7 月からは長期の病欠者があり、実質の勤務者数は 4 人となったため目標を大きく下回った。</p> <p>②サービス実施状況 制度改正に伴う必要な対応を行いサービス提供した。 特に総合事業は、市や各地域包括支援センターと相談しおこなう。また地域ケア会議、個別地域ケア会議にはすべてのケアマネジャーが参加した。</p>
千寿園	<p>(利用率) 97.4% (目標) 98.0% (前年) 96.8%</p> <p>①利用率状況 低所得者や虐待事案など困難ケースの受け入れを積極的に行い、年間平均利用率は 97.4% でほぼ目標通り、前年比 0.6% 改善した。</p> <p>②収支差額状況 当期活動増減差額 2,108 千円 (対目標比 2,831 千円) 利用率は向上、事業・事務費で大幅な節約に努め、約 1,457 千円増に留め改善した。</p> <p>③サービス実施状況 日常の健康管理について、看護職員と介護職員が緊密な連携を図り、日々の継続性に反映させる状態把握を徹底した。冬季の感染症流行期に備え、外部講師による研修会を行った。実際の動きについて詳細に洗い出し、対応方法の変更を行った。</p>

地域 包括 支援	① 実態把握 304 件（目標） 500 件（前年） 288 件
	② 予防給付 1728 件（目標） } 2400 件 （前年） 2208 件
	③ 総合事業 648 件（目標） } （前年） - 件
	④ 地域連携表 92 件（目標） 120 件 （前年） 29 件
	⑤ 取り組み状況
	⑥ 新規の地域支援事業（総合事業）について、的確なアセスメントに基づく、介護予防サービス計画の作成に努めた。今年度、他職種や地域とのネットワークを構築のため、地域ケア会議を 3 地区に分けて行い、「認知症高齢者を地域で支えるために」地域づくりについてグループワークを行った。

(再掲) J O C O (石田記念福祉館) の状況報告

(1) 収支状況 (資金収支計算書) の推移

	25年度	26年度	27年度	※参考
利用率 通所	47.1%	69.5%	74.6%	100%
利用率 短期	88.5%	89.0%	89.0%	100%
収入合計 (1)	57,784 千円	71,652 千円	69,179 千円	84,942 千円
収入 (通所)	21,659 千円	32,971 千円	31,267 千円	41,332 千円
収入 (短期)	36,117 千円	38,679 千円	37,912 千円	43,610 千円
支出合計 (2)	98,539 千円	98,203 千円	96,314 千円	—
人件費	70,357 千円	69,087 千円	68,643 千円	—
事業費	13,248 千円	15,559 千円	14,886 千円	—
事務費	7,259 千円	6,162 千円	5,151 千円	—
その他費用	7,675 千円	7,395 千円	7,637 千円	—
繰入額 (3)	45,000 千円	20,000 千円	35,000 千円	—
収支差額 (1) - (2) + (3)	△4,245 千円	△6,551 千円	△7,865 千円	—
実際の収支差額	△40,755 千円	△26,551 千円	△27,135 千円	

(2) 収支差額の要因

①開設準備 (予算) の見込みと実際の収支状況とのずれが大きく、収支差額は3年続けて大きなマイナスを計上している。これについては、※参考のとおり両事業共利用率を最大値に設定しても、収支バランスが取れない状況であり事業モデルの再構築が必要である。

②介護報酬改定による影響

27年度介護保険改正で報酬単価は大幅なマイナス改定となった。短期で4%、通所の介護で4.2%マイナスとなる。

(3) 今後の展開

上越市第6期介護保険事業計画地域密着事業サービス整備事業者公募(小規模多機能型居宅介護)《再公募》に応募し、事業転換をする。これにより上記の状況を多少緩和させるが、必ずしも楽観できず、引き続き効率、効果的な事業運営と収支状況の監視が必要である。

6月上旬 プレゼンテーション審査

7月上旬 事業者決定

10月 事業転換開始



### 3. 各種委託事業

#### (1) 新潟県（新潟市）認知症介護実務者研修

研修名称	第1回 実践者研修	第2回 実践者研修	新潟県小規模多 機能型計画作成 研修	管理者研修
研修月日	6月25日 ～8月21日	9月3日 ～10月30日	10月22日 ～10月23日	12月3日 ～12月4日
受講者数	54名	55名	30名	37名

#### (2) （新潟市）認知症介護実務者研修

研修名称	新潟市小規模多機能型計画作成研修
研修月日	平成28年2月24日 ～2月25日
受講者数	25名

#### (3) 上越老人福祉協会喀痰吸引研修（基本研修）

		第1回目 日時	第2回目 日時
講 義	1日目	7月6日(月) 9:30～16:40	11月2日(月) 9:30～16:40
	2日目	7月8日(水) 9:30～18:00	11月4日(水) 9:30～18:00
	3日目	7月10日(金) 9:30～16:50	11月6日(金) 9:30～16:50
	4日目	7月14日(火) 9:30～16:20	11月10日(火) 9:30～16:20
	5日目	7月15日(水) 9:30～18:00	11月12日(木) 9:30～18:00
	6日目	7月17日(金) 9:30～17:20	11月16日(月) 9:30～17:20
	7日目	7月21日(火) 9:30～16:20	11月18日(水) 9:30～16:20
	8日目	7月23日(木) 9:30～18:00	11月20日(金) 9:30～18:00
筆記試験		7月29日(水) 9:30～11:30	11月27日(金) 9:30～11:30
		① 8月17日(月) ② 8月21日(金) ③ 8月25日(火) いずれも 9:00～18:00	① 12月18日(金) ② 12月21日(月) ③ 12月25日(金) いずれも 9:00～18:00
修了者数		30名	30名

